

令和8年3月

令和8年	1月	～	3月期	実績
令和8年	4月	～	6月期	見通し

中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

主要景況項目の動き.....	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移	23
* 過去10年間	
〔集計資料〕	

D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

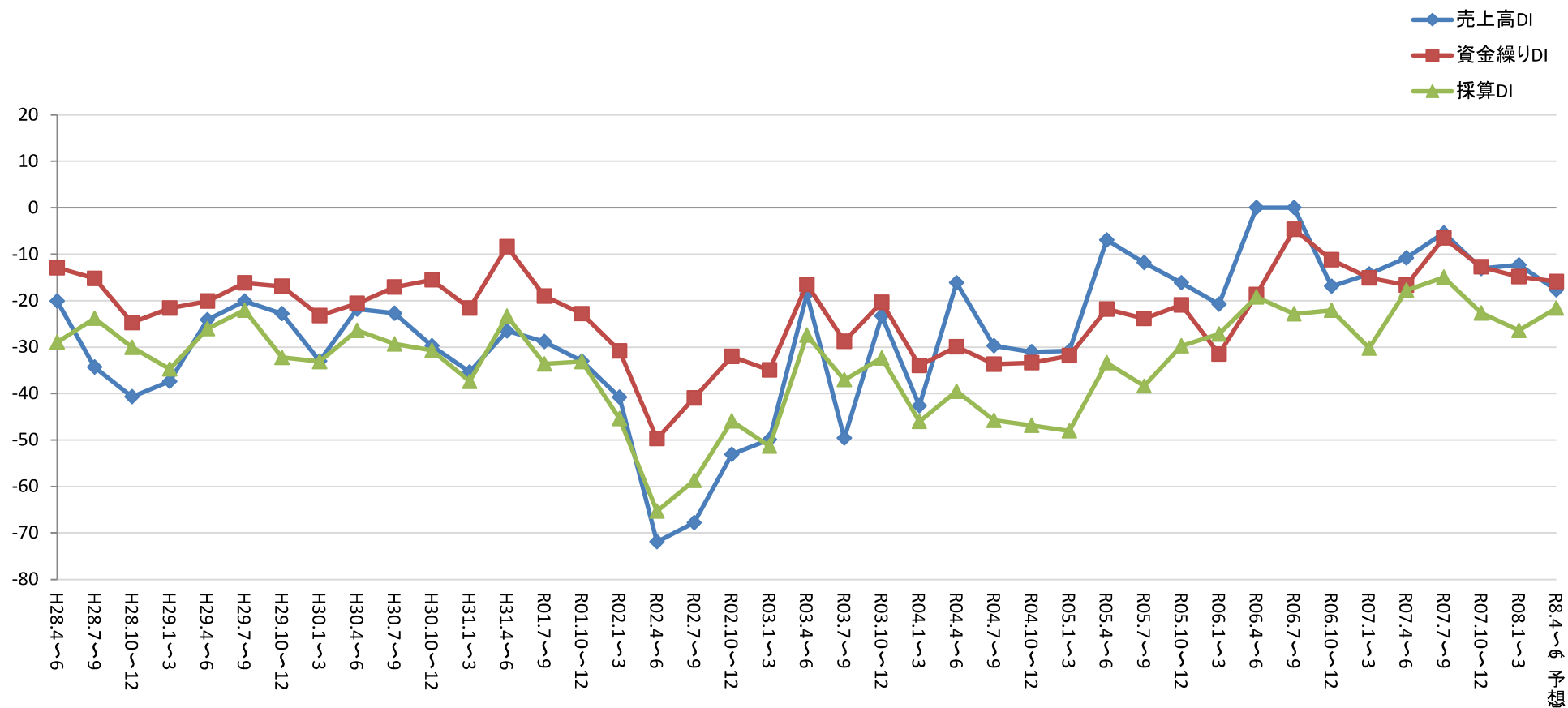
D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。

たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、 $D・I = 50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。

[岩手県 産業全体]

主要景況項目の動き 一前年同期比一



業 況 天 気 図

期 間 業 種	令和6年 4～6月	7～9月	10～12月	令和7年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	(今期) 1～3月	(見通し) 令和8年 4～6月
製 造 業	 薄 曇	 薄 曇	 曇	 薄 曇	 薄 曇	 薄 曇	 薄 曇	 薄 曇	 曇
建 設 業	 晴	 薄 曇	 曇	 曇	 雨	 曇	 曇	 曇	 薄 曇
小 売 業	 曇	 曇	 曇	 曇	 曇	 薄 曇	 曇	 曇	 曇
サ ー ビ ス 業	 薄 曇	 薄 曇	 薄 曇	 曇	 薄 曇	 薄 曇	 曇	 曇	 曇

売 上 高 D I	100.0 ～30.1	30.0 ～10.1	10.0 ～△10.0	△10.1 ～△30.0	△30.1 ～△100.0
表 示	 快 晴	 晴	 薄 曇	 曇	 雨

全産業の推移

売上高

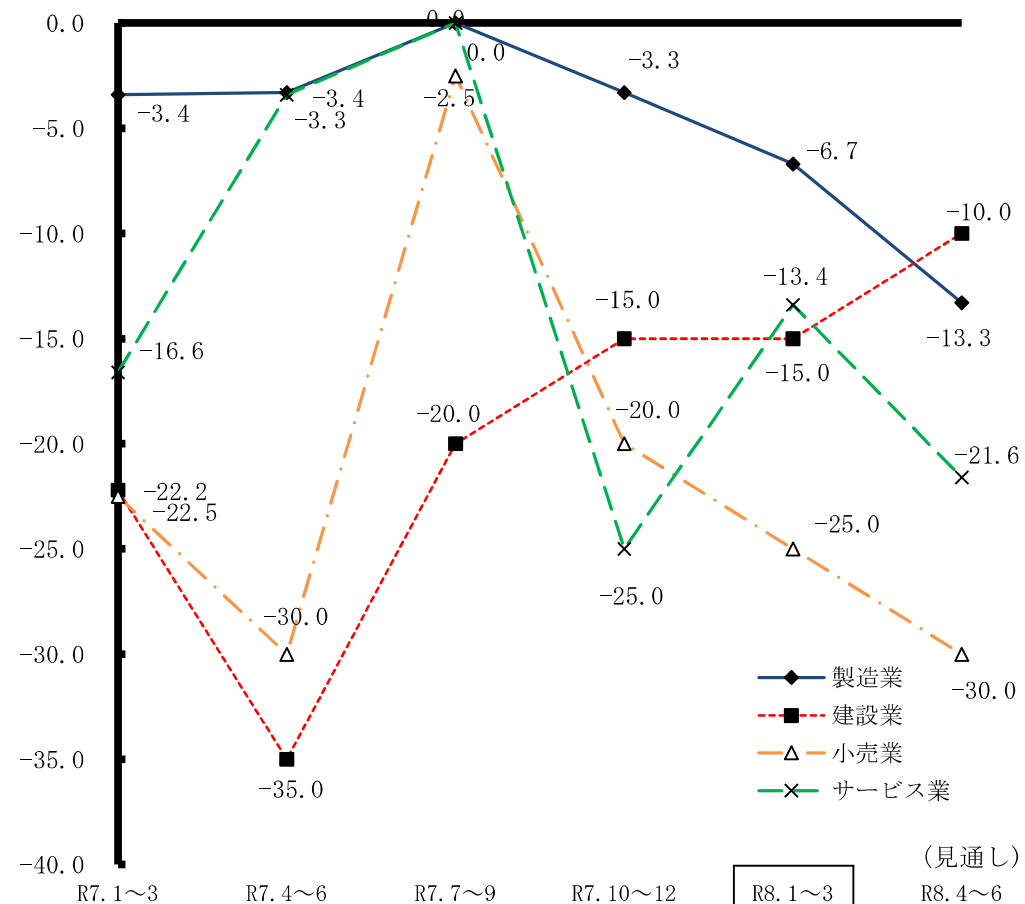
サービス業の売上高D・Iが反転して上昇 製造業、小売業が2期連続の低下

今期の売上高D・Iは、前期大幅に低下していたサービス業が上昇に転じました。他方、製造業と小売業は2期連続の低下となりました。建設業は前期と横ばいとなっています。

前期大幅に低下していたサービス業は上昇に転じ、11.6ポイント上昇して△13.4までマイナス幅を縮小しています。前々期売上高D・Iがゼロまで改善していた製造業は前期に引続き低下し、3.4ポイント低下して△6.7となりました。小売業も2期連続の低下となり、5.0ポイント低下の△25.0となりました。建設業は横ばいにとどまっています。

来期は、建設業の上昇が予想されていますが、サービス業が低下に転じるほか、製造業、小売業は引き続き低下し、3期連続の低下となることが見込まれています。

※建設業の売上高は完成工事高



全産業の推移

採 算

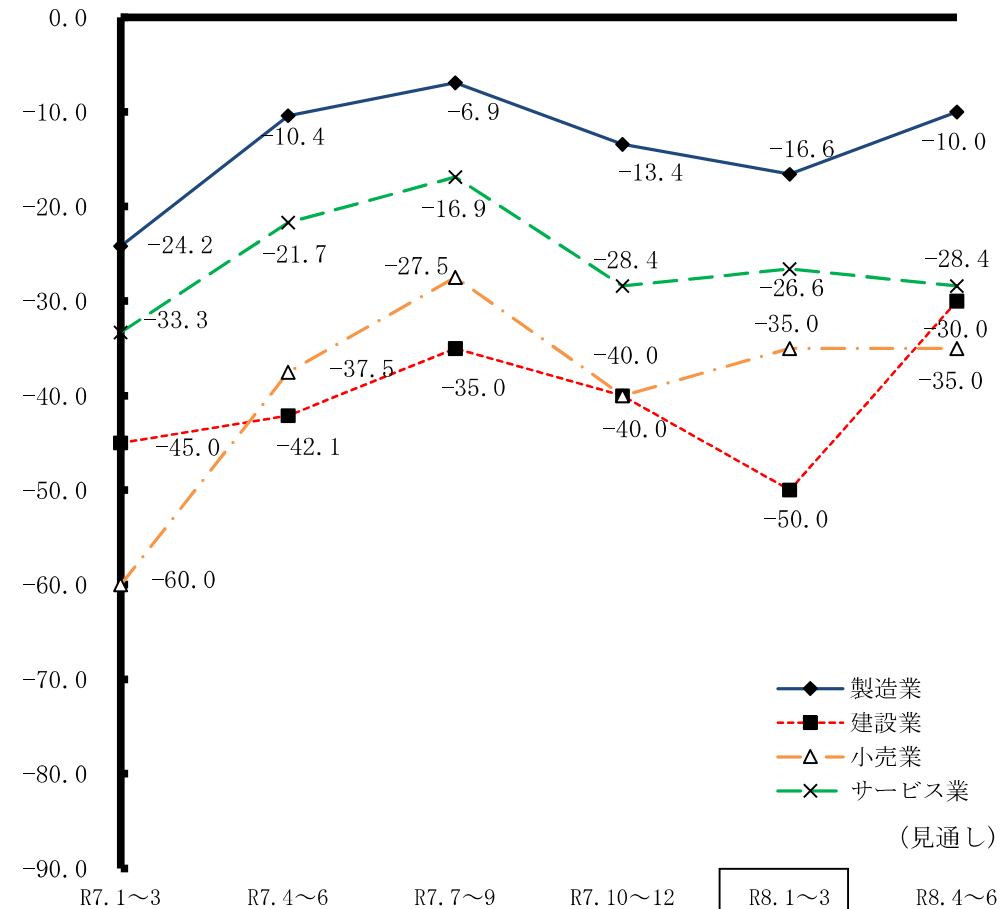
**サービス業と小売業において採算D・Iが改善
製造業、建設業は2期連続の悪化**

前期全業種において悪化基調にあった採算D・Iですが、今期はサービス業と小売業において改善となりました。他方、製造業と建設業は2期連続の悪化となりました。

小売業は5.0ポイントの上昇より△35.0まで改善、サービス業も1.8ポイントと僅かながら上昇し、△26.6まで改善しました。他方、製造業は3.2ポイント低下して△16.6まで悪化、建設業は10.0ポイントと二桁台の低下となり、△50.0までマイナス幅を拡大しています。

来期は、悪化基調にあった製造業と建設業において採算D・Iの改善が見込まれます。また、小売業は今期と横ばいにとどまり、サービス業は僅かながら悪化に転じることが見込まれています。

※採算は各業種とも経常利益



全産業の推移

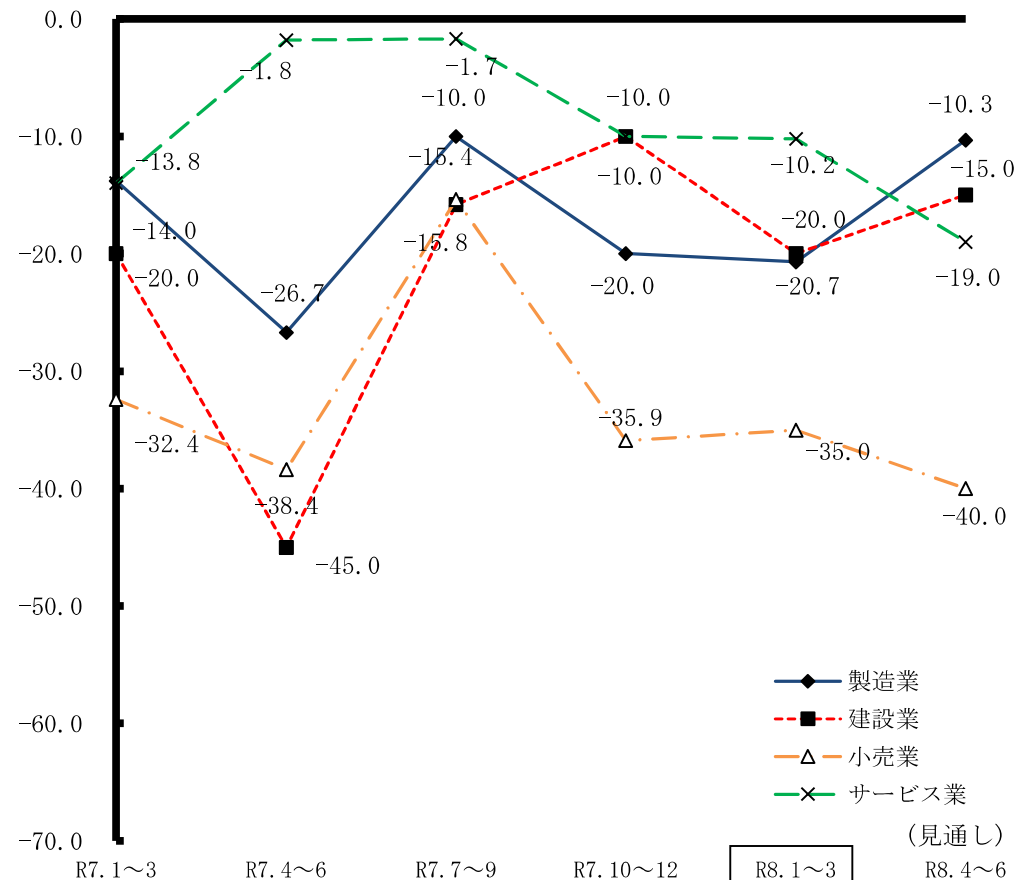
資金繰り

**建設業を除く3業種の資金繰りD・Iはほぼ横ばい
建設業は大幅に悪化**

前期低下基調にあったサービス業、製造業、小売業の3業種の資金繰りD・Iは小売業において僅かに改善したほかサービス業と製造業では、ほぼ前期と横ばいとなりました。建設業のみが二桁台の悪化となっています。

前期大幅に悪化していた小売業が下げ止まり、0.9ポイントと僅かながら改善して△35.0となりました。前期悪化に転じていたサービス業はほぼ横ばいの△10.2、同じく前期悪化していた製造業もほぼ横ばいの△20.7となりました。他方、前期まで2期連続して改善基調にあった建設業は悪化に転じ、10.0ポイント低下して△20.0となっています。

来期は、製造業と建設業が改善に転じることが見込まれるものの、サービス業と小売業は悪化することが予想されています。



製造業の推移

売上高

<今 期>

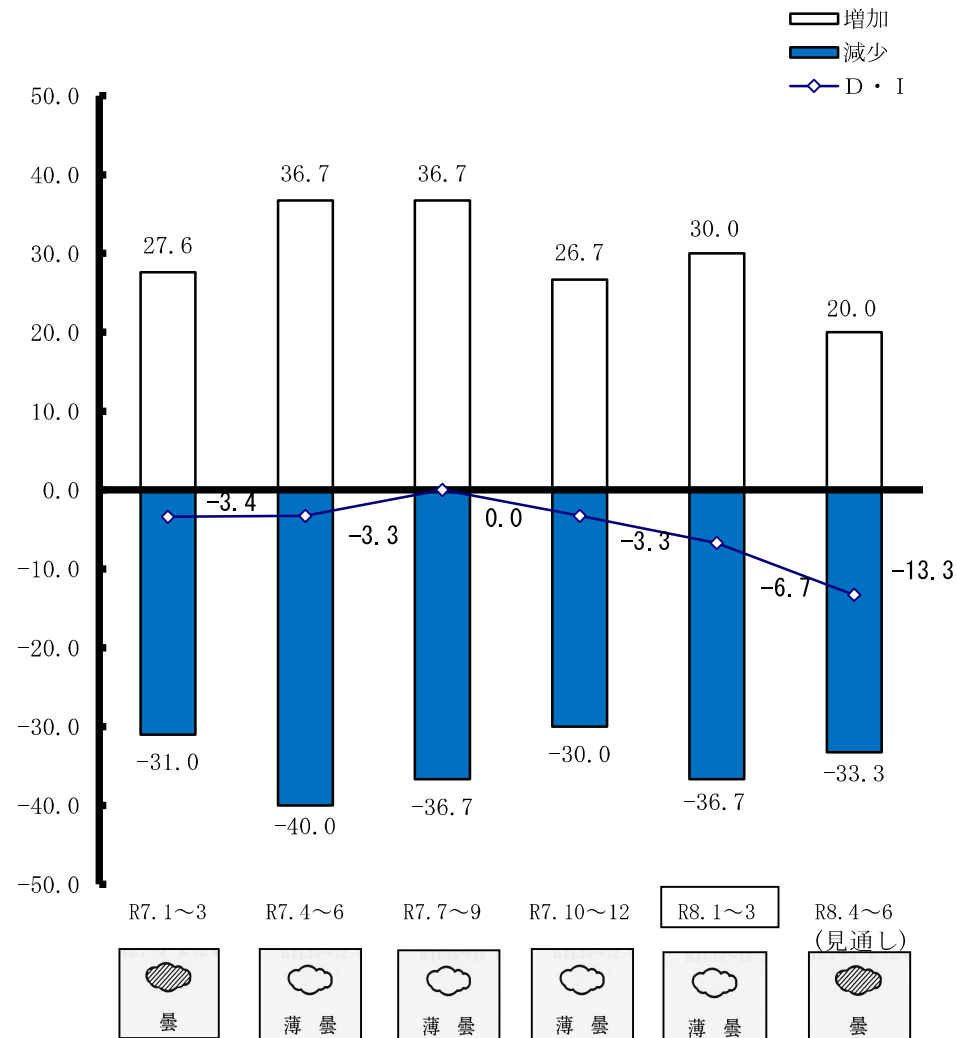


<来期見通し>



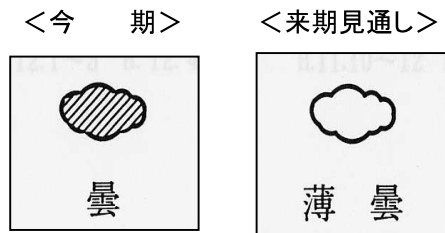
今期は、売上高増加企業の割合が増加したものの、売上高減少企業の割合も増加し、売上高増加企業の割合が3.3ポイント増加したのに対し、売上高減少企業の割合の増加幅が6.7ポイントだったことにより売上高D・Iは3.4ポイント低下して△6.7となりました。

来期は、売上高の減少を予想する企業の割合が減少するものの、売上高の増加を予想する企業割合の減少率が大きいことから、売上高D・Iは今期に引続き低下し、景況天気図も薄曇りから曇へと変化する見通しです。



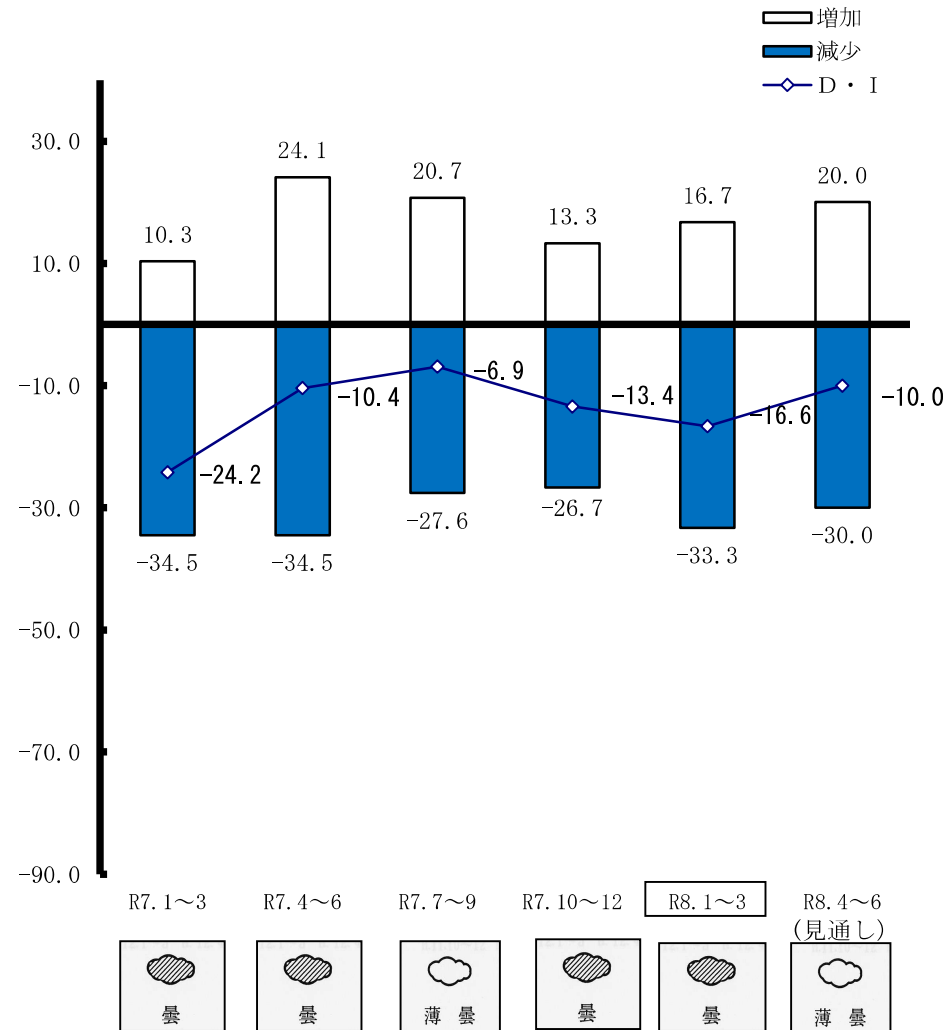
製造業の推移

採算



今期は、採算が改善した企業の割合が3.4ポイント増加したものの、採算が悪化した企業の割合が6.6ポイント増加したことにより採算D・Iは3.2ポイント低下して△16.6まで悪化しています。

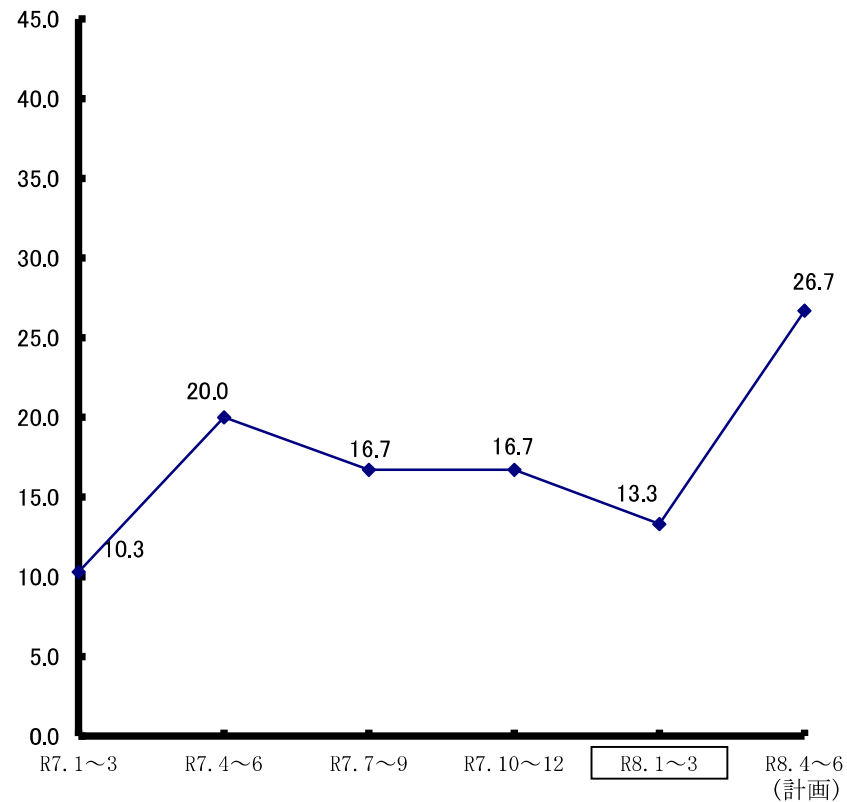
来期は、採算の改善を予想する企業が今期に引続き増加し、採算の悪化を予想する企業が減少することから、採算D・Iは改善に転じる見通しです。



設備投資

製造業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期から3.4ポイント減少し、13.3にとどまっています。

来期は、設備投資の実施を予定する企業数の割合が13.4ポイント増加し、設備投資実施予定企業の割合は26.7まで上昇する見通しとなっています。



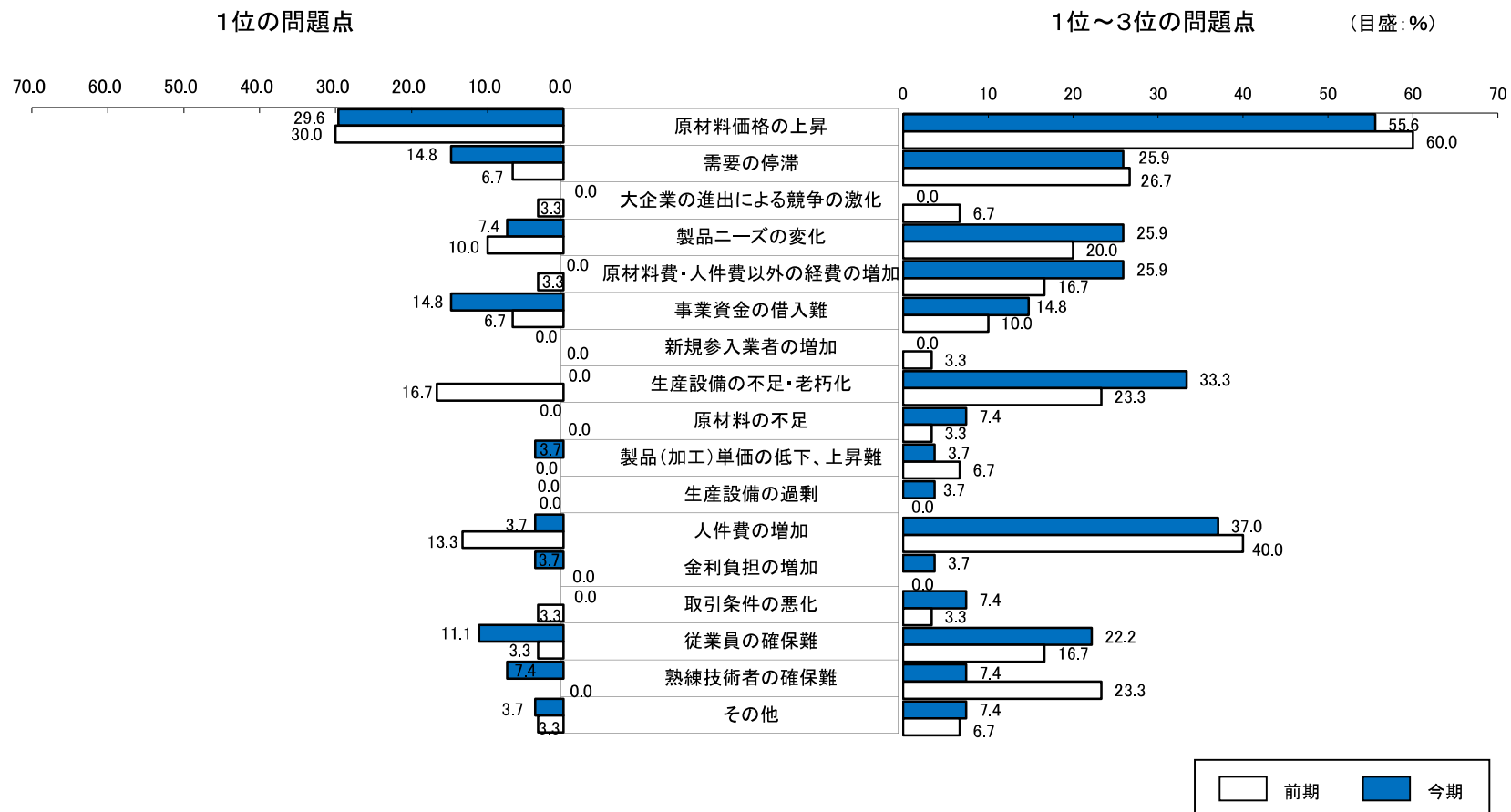
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

製造業の推移

経営上の問題点

岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



建設業の推移

売上高

<今 期>



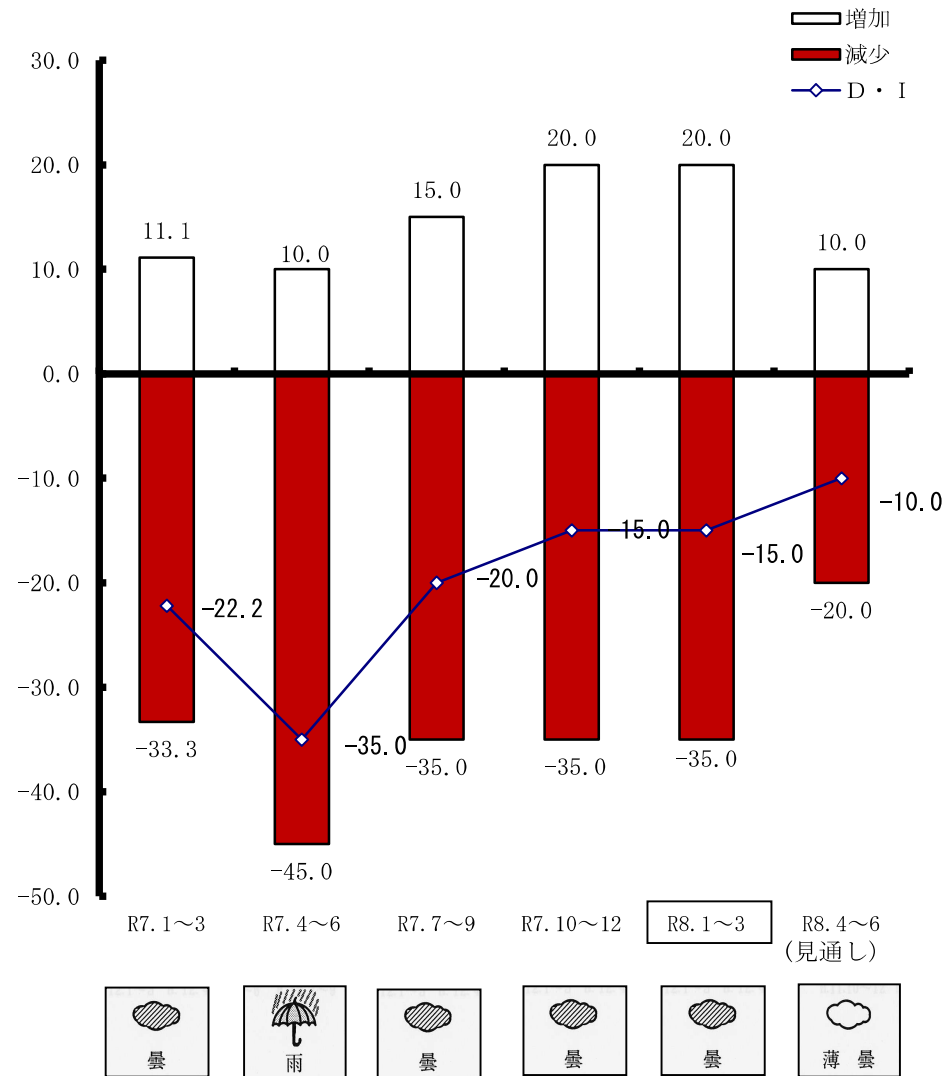
<来期見通し>



前期まで2期連続して上昇していた建設業の売上高D・Iは、今期は横ばいにとどまりました。今期は売上高が増加した企業割合、売上高が減少した企業割合がともに前期と同じ数値となったため、売上高 D・I は変化せず前期と横ばいとなっています。

来期は、売上高の増加を予想する企業の割合は今期と比べて大きく減少するものの、売上高の減少を予想する企業の減少幅が大きいことから、売上高D・Iは上昇に転じ、マイナス幅を縮小することが予想されています。

※建設業の売上高は完成工事高



採算

<今 期>

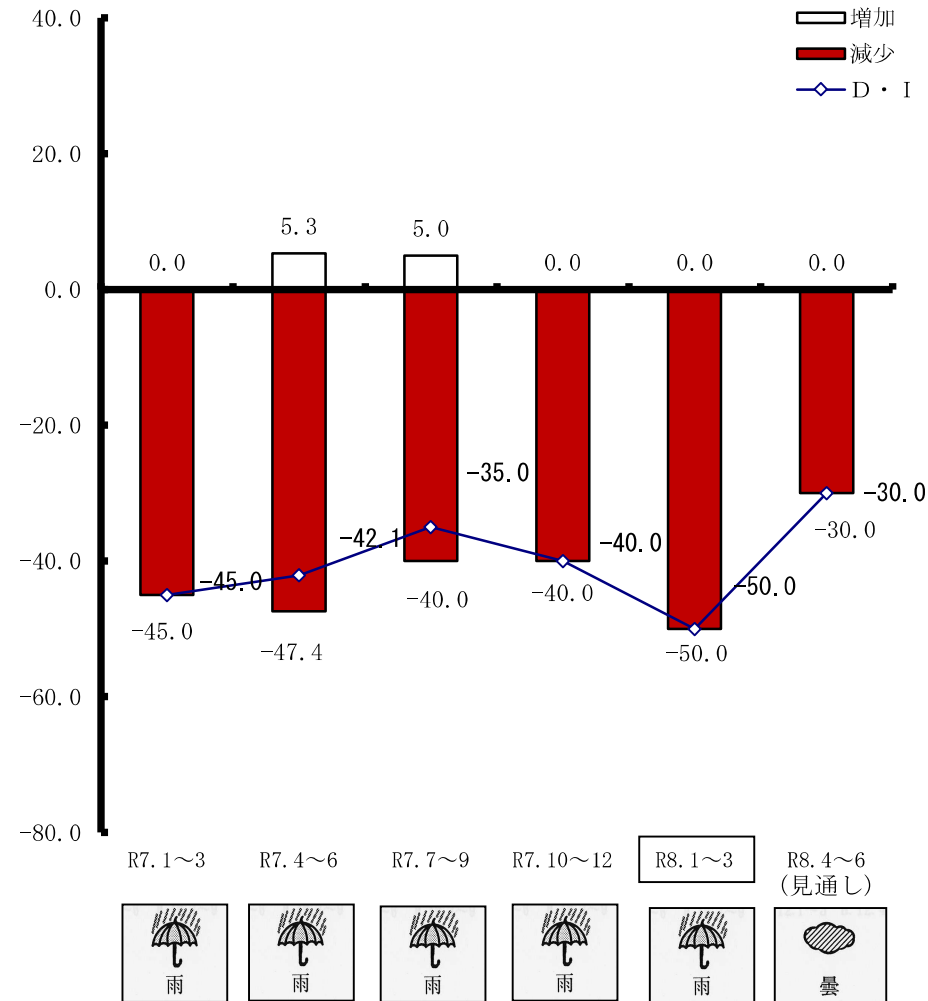


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合がゼロにとどまった一方、採算が悪化した企業の割合が増加したことから、採算D・Iは10.0ポイント低下して△50.0までマイナス幅を拡大して低迷しています。

来期は、採算の改善を予想する企業が今期に引続きゼロにとどまるものの、採算の悪化を予想する企業が今期比べて20.0ポイントと大幅に減少することから、採算D・Iは大きく改善し、景況天気図も雨から曇へと変化する見通しとなっています。

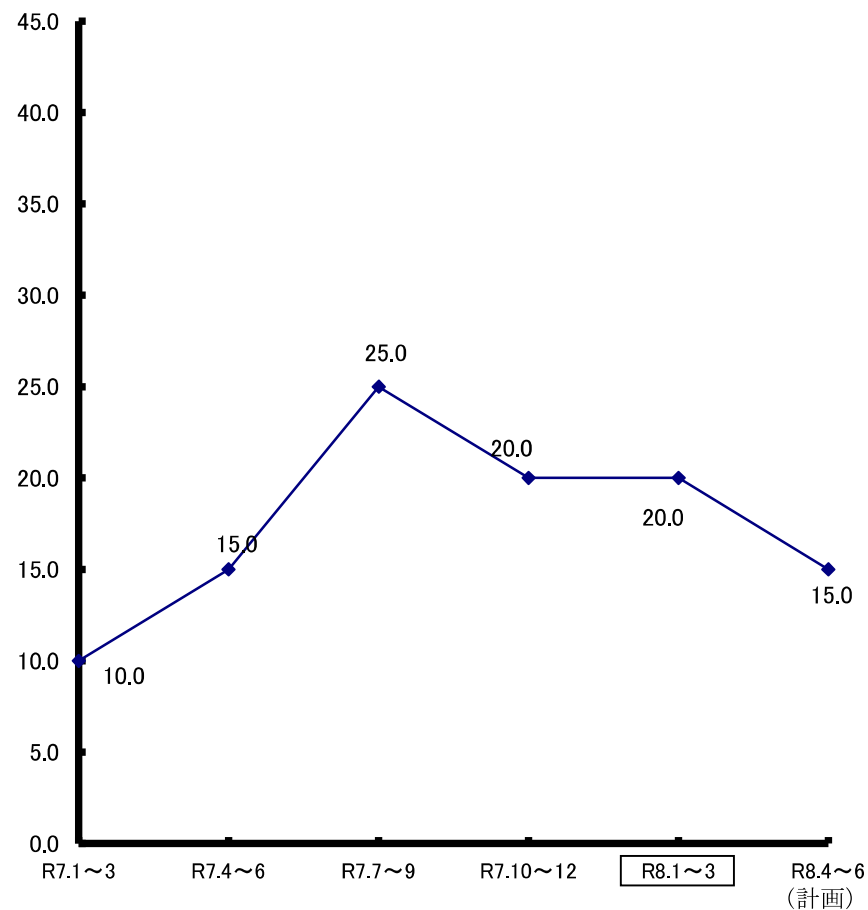


設備投資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は前期と横ばいの20.0にとどまりました。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は減少に転じ、5.0ポイント減少して15.0程度にとどまることが予想されます。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

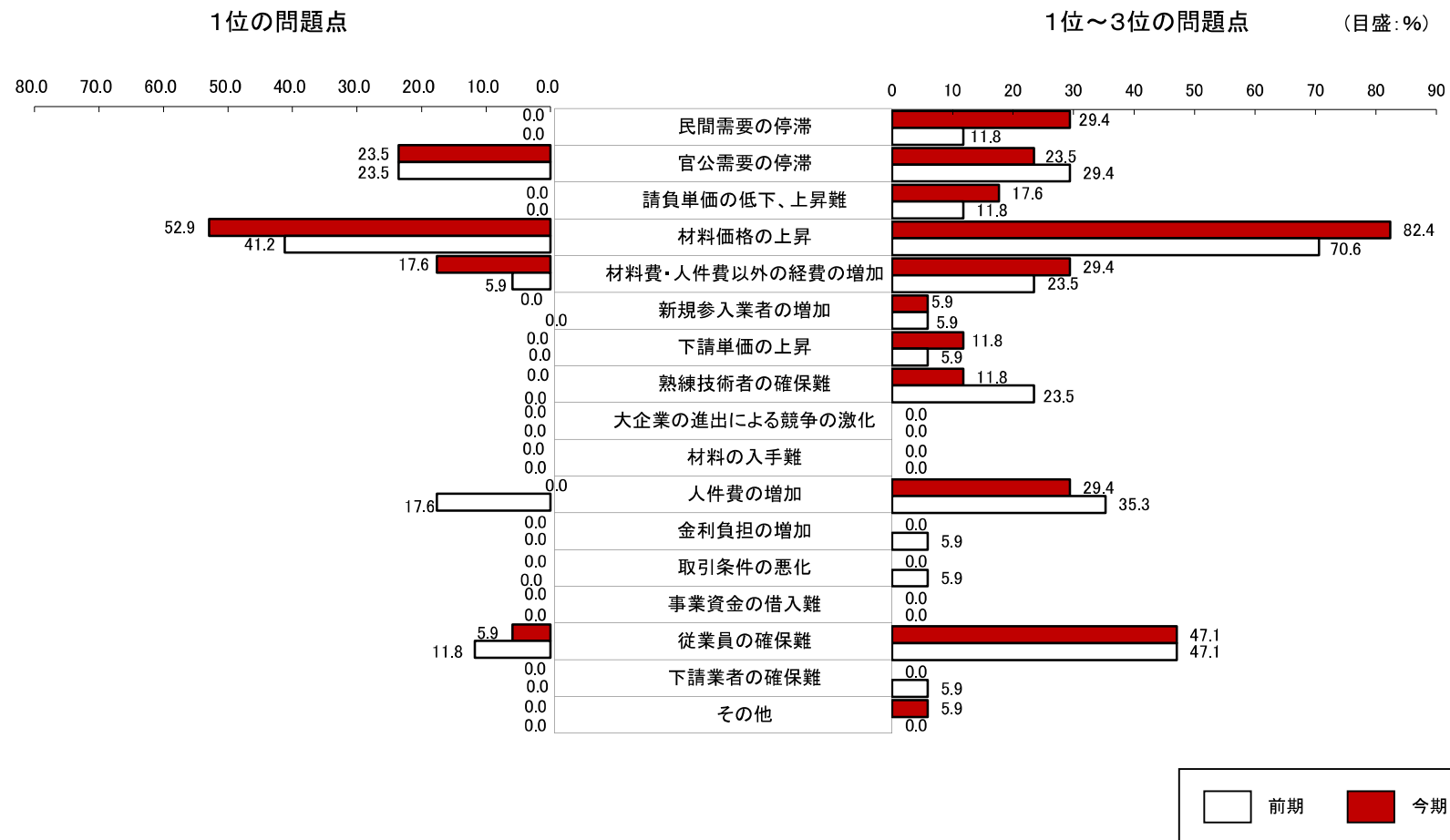


建設業の推移

経営上の問題点

岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



小 売 業 の 推 移

売 上 高

<今 期>

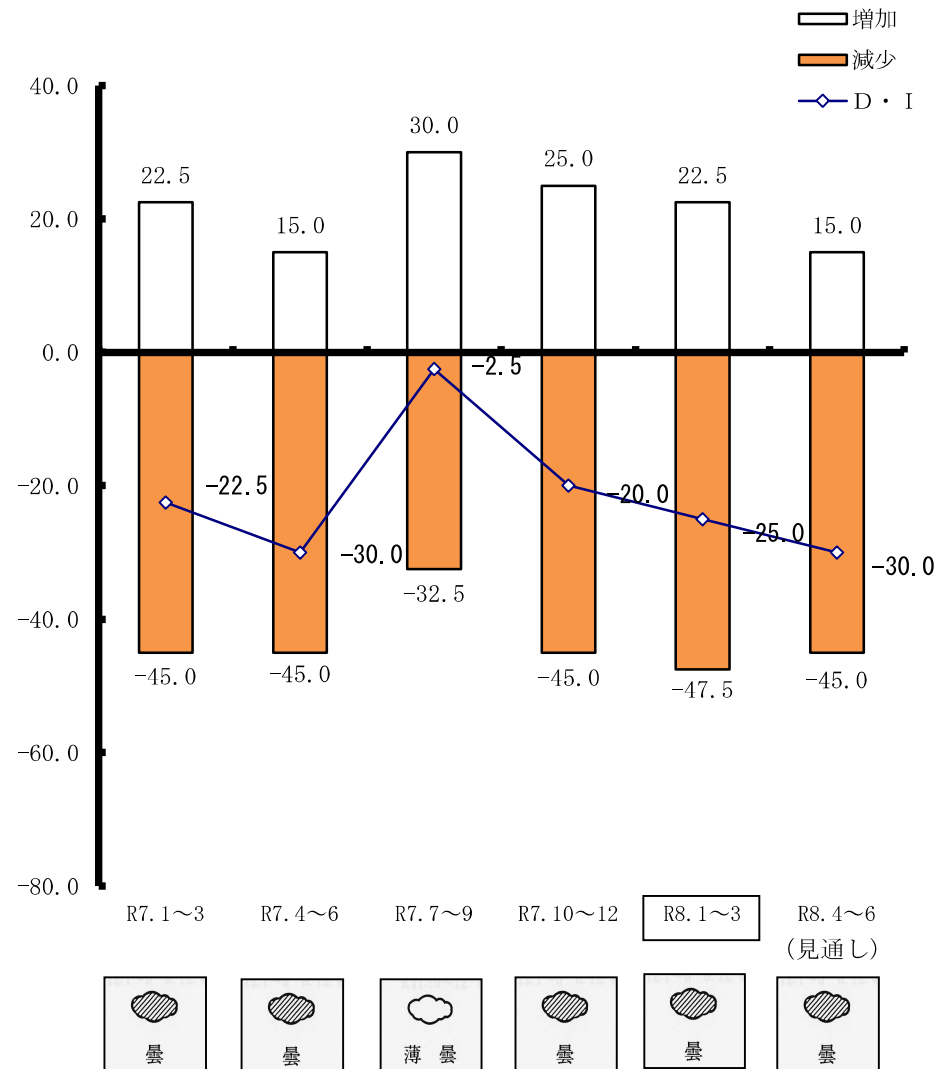


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が2.5ポイント減少し、売上高減少企業の割合が2.5ポイント増加したことにより、売上高D・Iは5.0ポイントの低下となり△25.0まで低下しました。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合は今期に引き続いて減少し、他方、売上高の減少を予想する企業割合も減少となるものの、その減少幅が小さいため、売上高D・Iは今期に引続き低下する見通しです。



小 売 業 の 推 移

採 算

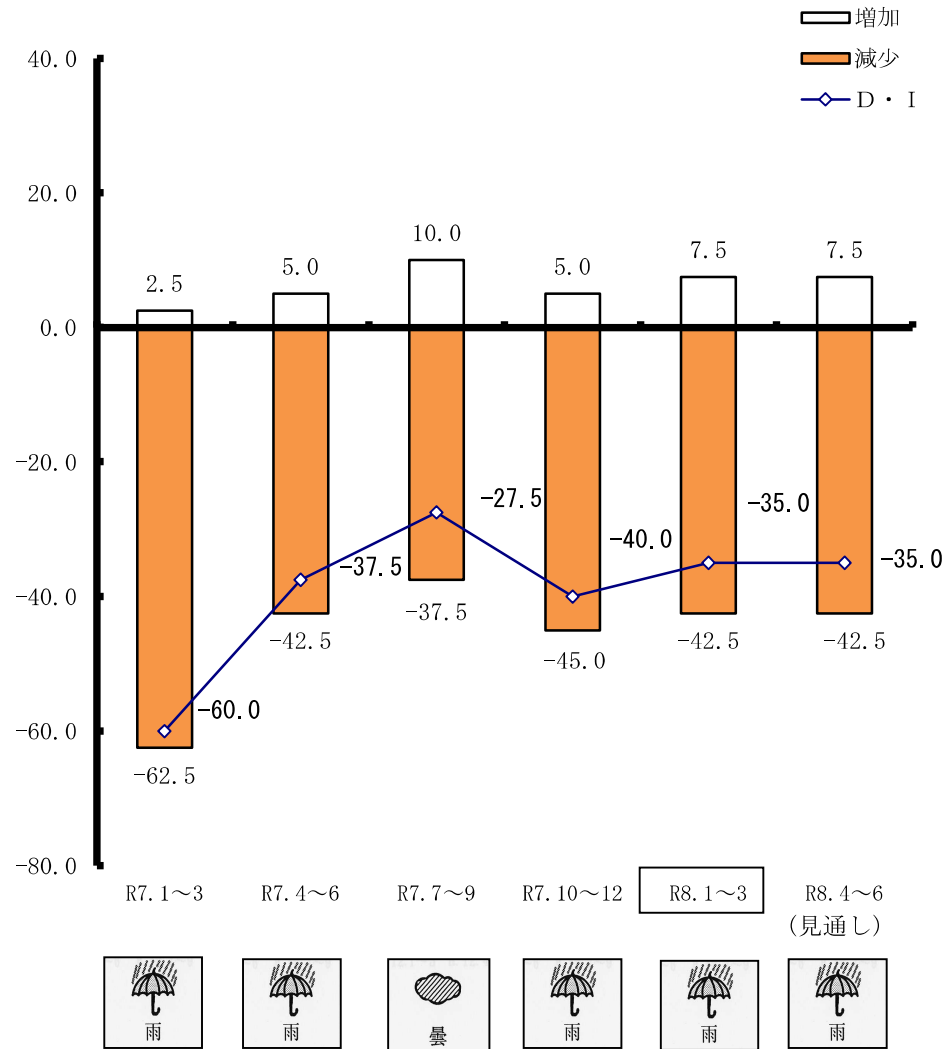
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が、2.5ポイント増加し、採算が悪化した企業割合が2.5ポイント減少したことから、採算D・Iは5.0ポイント増加して△35.0まで改善しました。

来期は、採算の好転を予想する企業割合、採算の悪化を予想する企業割合がともに今期と横ばいとなることから、採算D・Iは今期と同じ数値にとどまり、引き続き低迷する見通しです。

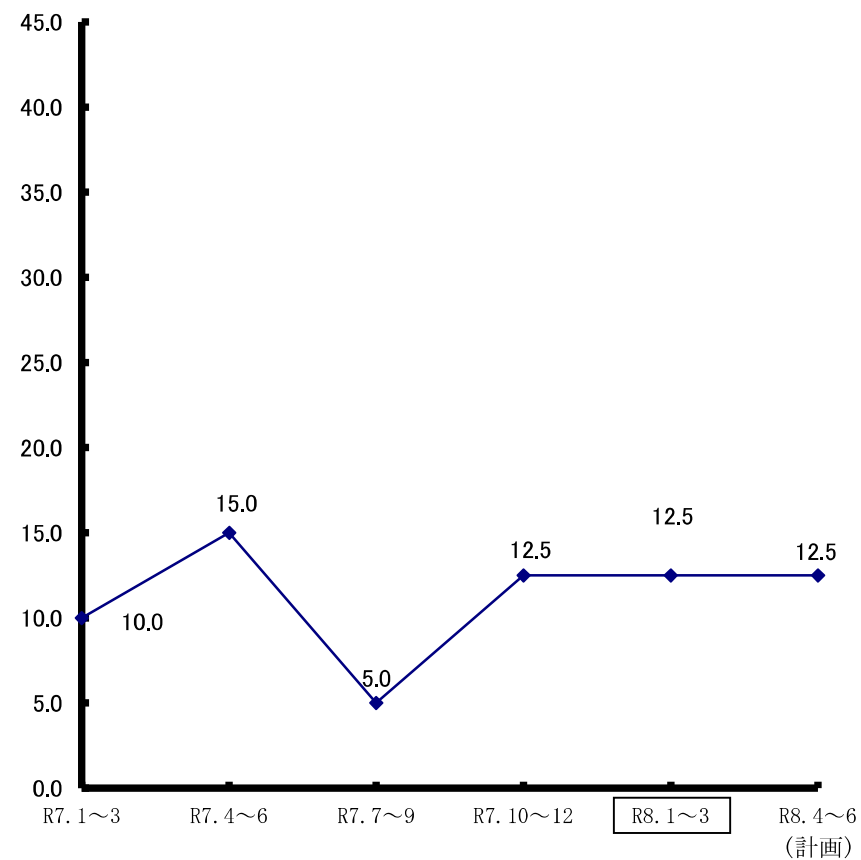


小 売 業 の 推 移

設 備 投 資

今期、小売業において設備投資を実施した企業数の割合は前期と同じレベルの12.5にとどまりました。

来期も、設備投資を計画している企業数の割合は今期と同じレベルにとどまる見通しです。



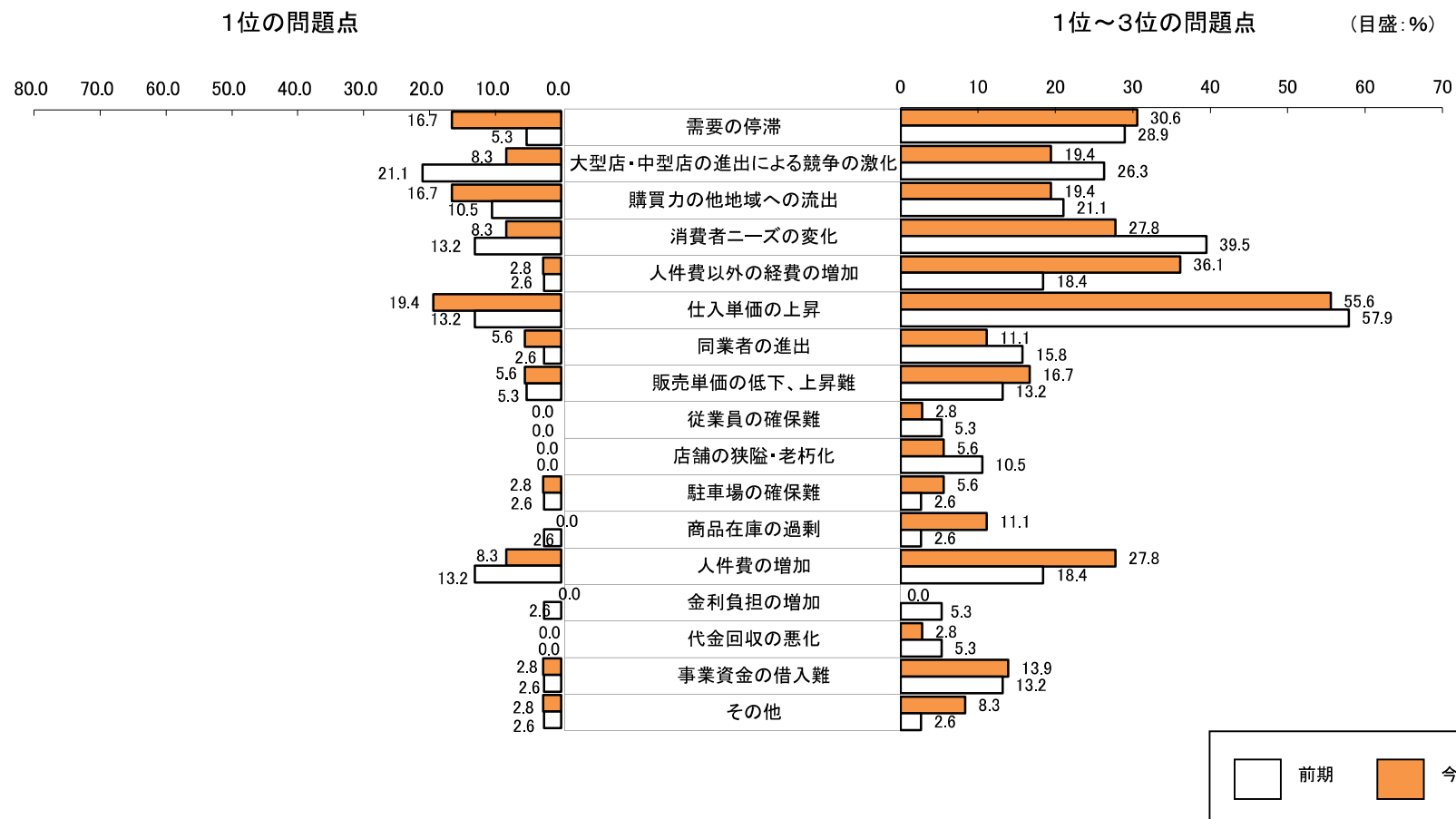
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

小 売 業 の 推 移

経営上の問題点

岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



サービス業の推移

売上高

<今 期>

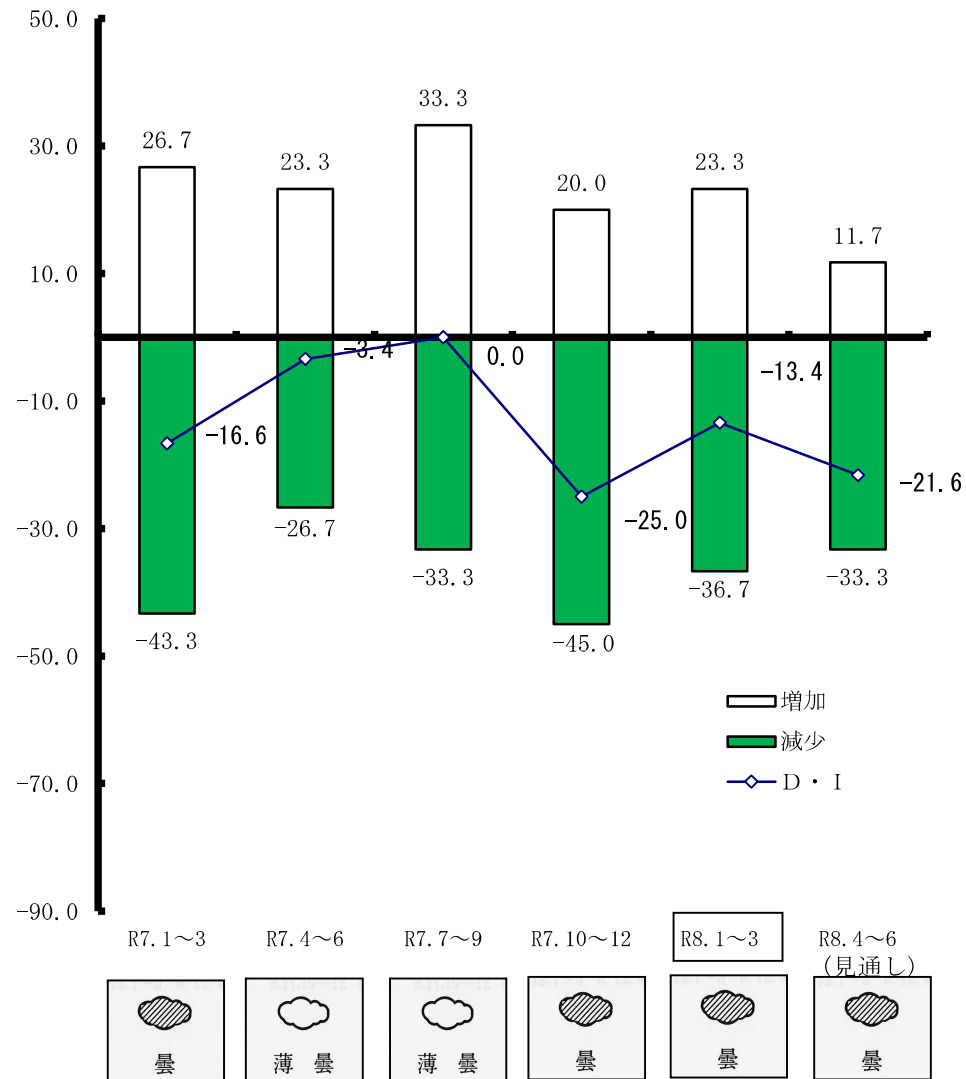


<来期見通し>



今期は売上高増加企業の割合が3.3ポイント増加し、売上高減少企業の割合が8.3ポイント減少したことにより、売上高D・Iは11.6ポイントの大幅な増加となり△13.4までマイナス幅を縮小しました。

来期は、売上高増加を予想する企業の割合が大きく減少する一方、売上高減少を予想する企業割合も減少するものの、その減少幅が小さいことから、売上高D・Iは悪化に転じることが予想されています。



サービス業の推移

採算

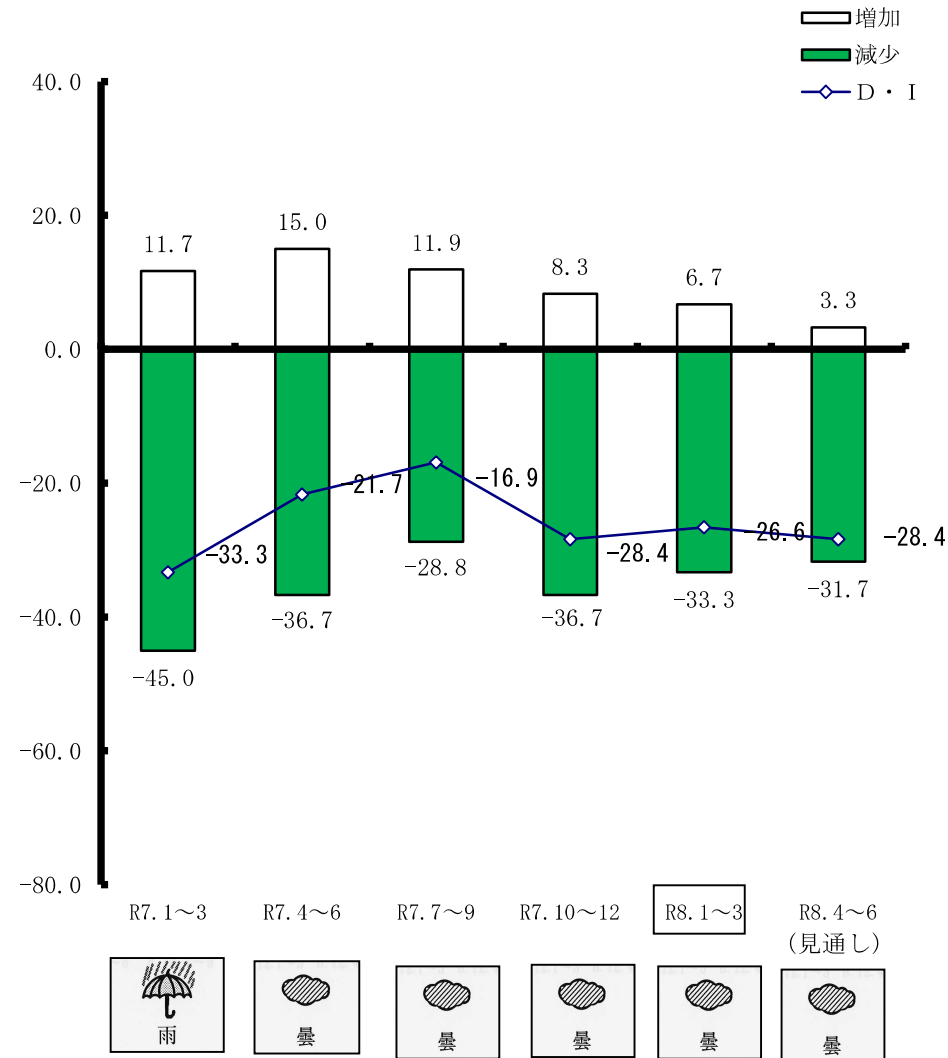
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業割合が1.6ポイント減少したものの、採算が悪化した企業割合が3.4ポイント減少したことにより採算D・Iは僅かながら上昇し、△26.6となりました。

来期は、採算の改善を予想する企業割合が今期に引続き減少し、採算の悪化を予想する企業割合も減少するものの減少幅が僅かなことから、採算D・Iは1.8ポイント程度低下することが見込まれています。

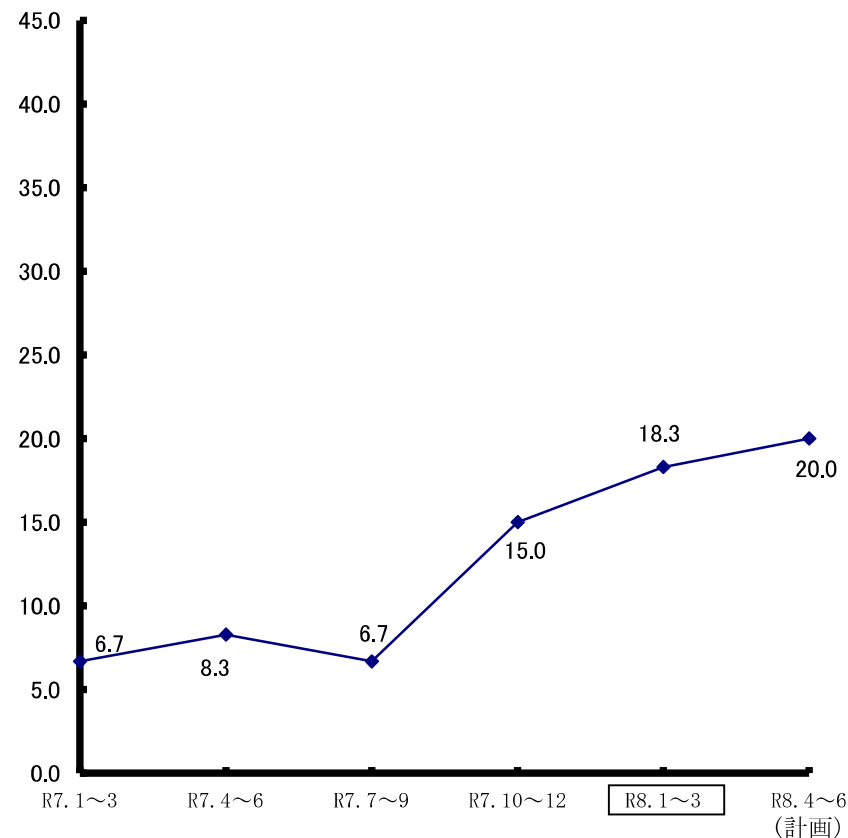


サービス業の推移

設備投資

サービス業において設備投資を実施した企業数の割合は前期に引続いて増加し、3.3ポイント増加して18.3まで上昇しています。

来期設備投資を実施する企業数の割合は今期に引続き増加することが見込まれ、20.0程度まで上昇する見通しです。



(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

サービス業の推移

経営上の問題点

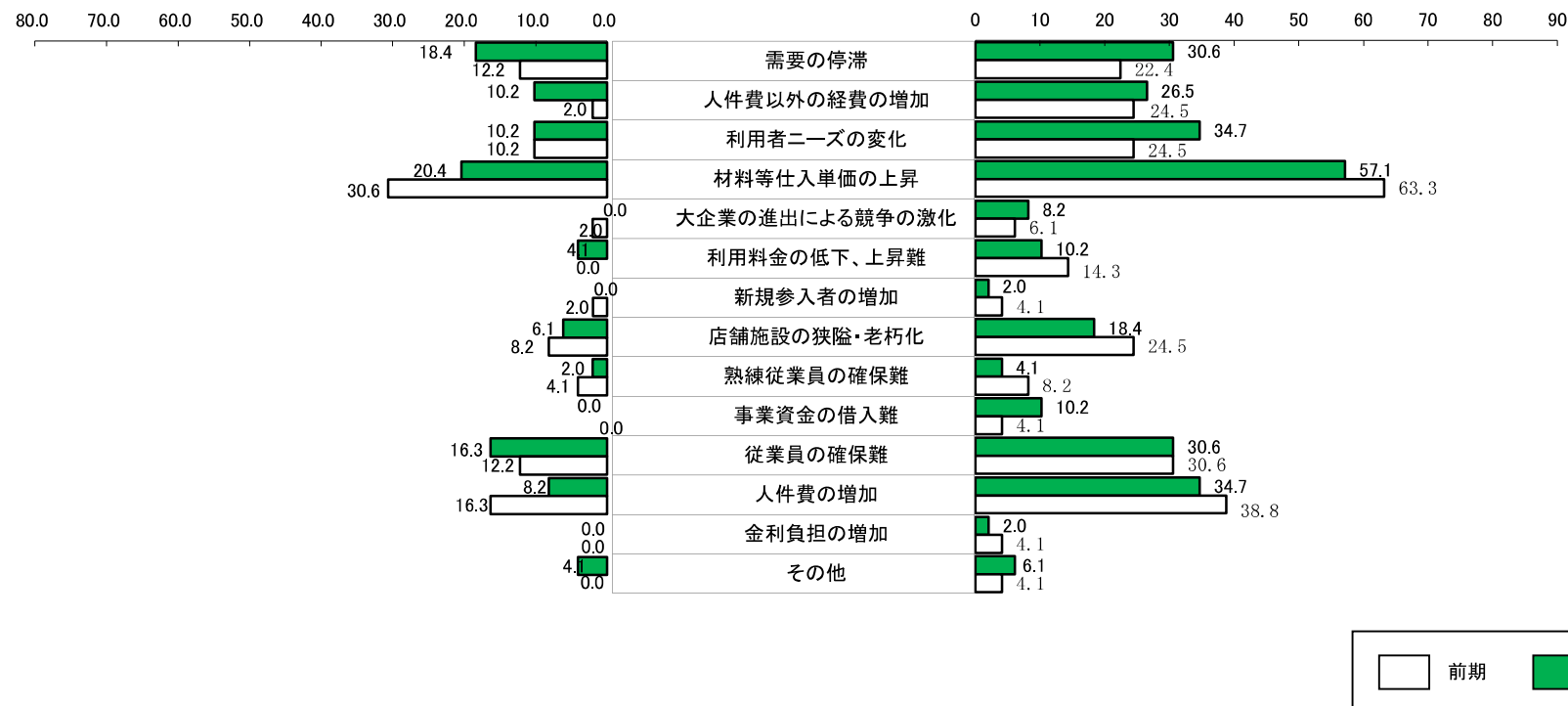
岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)

1位の問題点

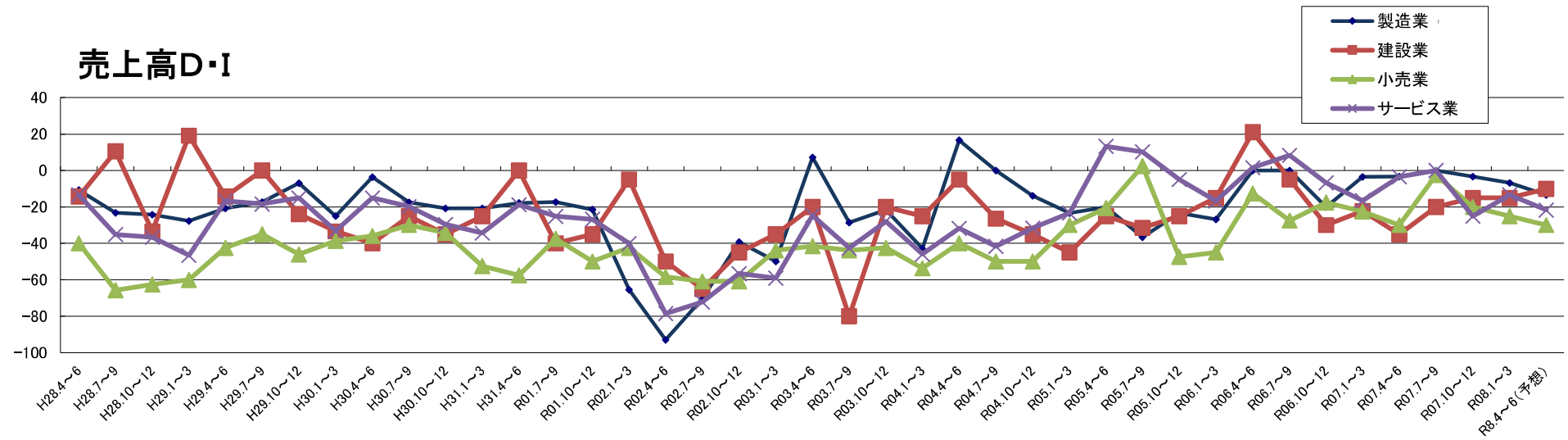
1位～3位の問題点

(目盛:%)

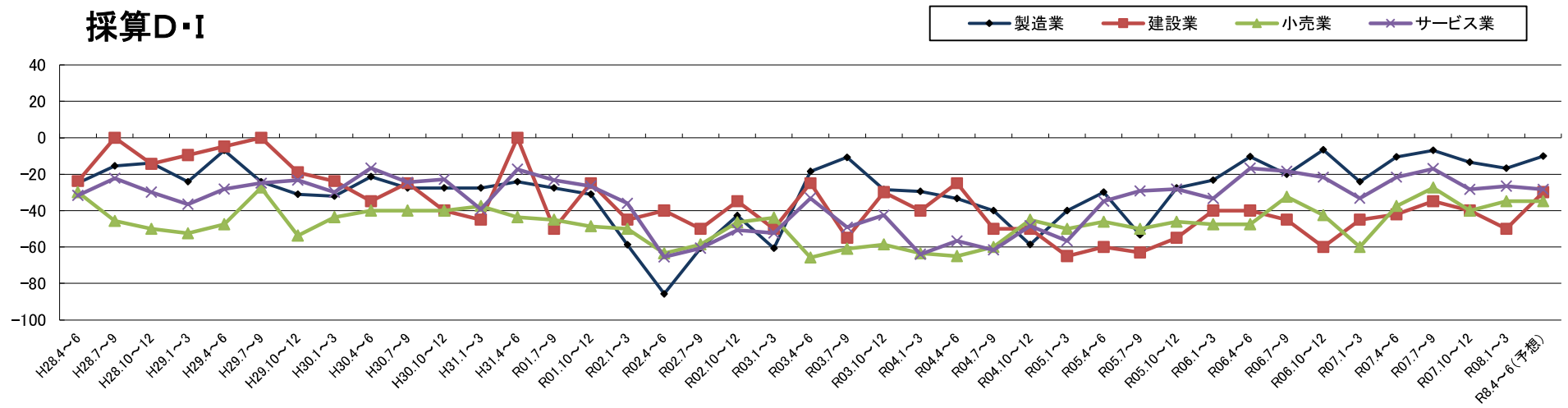


全産業の過去データの推移(過去10年間)

売上高D・I



採算D・I



集 計 資 料

調 査 要 項

1. 調 査 対 象 (1) 対象地区 県内10商工会地区 二戸市、八幡平市、滝沢市、矢巾町、前沢
(商工会名) 金ケ崎町、大槌、山田町、野田村、一戸町
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業
2. 調 査 対 象 期 間 令和8年1月～3月を対象とし、調査時点は令和8年3月1日としました。
3. 調 査 方 法 (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。
(2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。

4. 対象企業等内訳

業種 \ 項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 (%)
製造業 (地域産業)	30 (20.0)	30 (20.0)	100.0
建 設 業	20 (13.3)	20 (13.3)	100.0
小 売 業	40 (26.7)	40 (26.7)	100.0
サ ー ビ ス 業	60 (40.0)	60 (40.0)	100.0
	150 (100.0)	150 (100.0)	100.0

(注) カッコ内の数字は、構成比 (%) を表す。

5. そ の 他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、各調査項目についての増加 (上昇、好転、長期化) 企業割合と減少 (低下、悪化、短期化) 企業割合の差を示すものであります。